

兵庫県保険医協会北阪神支部

—新春政策学習会のご案内—

『大軍拡と社会保障財源(仮)』

講師 神戸女学院大学名誉教授 石川 康宏 先生

日時 2025年1月18日(土) 16:00 ~ 17:20

会場 がんこ宝塚苑 (宝塚市栄町 3-3-15 TEL:0797-85-8188)

※終了後、同会場にて新年会(参加費:8000円 17:30~)

岸田自公政権は、2022年12月16日に閣議決定された「安保三文書」による「戦争をする国づくり」を進めてきました。これを引き継いだ石破政権によって、今後、より一層の大軍拡・「戦争をする国づくり」及び改憲策動が進められようとしています。大軍拡の一方、社会保障の削減が財源として狙われています。本来国民の生活のために使われるべきお金が軍備に用いられ、私たちの生活は益々圧迫されます。

今回は、神戸女学院大学名誉教授の石川康宏先生をお招きし、大軍拡と社会保障財源についてお話いただきます。ぜひご参加ください。



JR・阪急宝塚駅から約徒歩7分

お問い合わせは、北阪神支部担当事務局 (Tel 078-393-1805) 大野・小川まで

(切り取らずに返信ください) 【FAX返信】078-393-1802

■北阪神支部・新春政策学習会に () 名出席します
新年会に () 名出席します

地区 _____ ※人数をお知らせください

お名前 _____ 医療機関名 _____

兵庫県保険医協会

北阪神支部 ニュース

2024年12月15号 No.351

発行者 兵庫県保険医協会北阪神支部
支部長 中井通治

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階

☎(078)393-1801 FAX(078)393-1802

http://www.hhk.jp/

県保険医協会第104回評議員会

医療・社会保障抑制政策を転換しよう



自民党の裏金事件で企業との癒着を訴える谷口紀善評議員(右上)

協会は11月17日に第104回評議員会を協会会議室で開催し、評議員ら89人が参加した。北阪神支部からは谷口紀善評議員と歯科部会の島津俊二評議員が発言した。発言内容を紹介する

北阪神支部 谷口紀善評議員 発言

これが政治か!

このたび裏金問題が明らかとなり、政権を担ってきた自民党をただすため、問うための総選挙だった。結果は自公与党が過半数割れの大敗を喫して、玉木代表率いる野党・国民民主党という少数与党が衆議院のキャスティングボードを握る結果となった。選挙中に明らかになった裏公認料2000万円にしても、自民党には企業などへの癒着がいちじるしいのではないかと。これは氷山の一角にすぎないかもしれない。このような献金に染まるとやめられない。



今回の選挙では、立憲民主党も、国民民主党も議席を伸ばしたが、自民・公明におもねること

(次のページに続く)

(1面からのつづき)

なく、国民生活によりそった野党として、まい進すべきだ。与野党とも103万円の壁の見直しに賛成しているが、7~8兆円とされる減収をどうするか。ガソリン補助金もそうだ。選挙から1か月たったが、まだ何も決まっていない。11月14日より石破首相は南米に外遊しており、さらに、国民民主の玉木代表の不倫報道もあった。こんな大事なときに、石破氏も国会で居眠りしている。これまででは考えられない。これが政治かと問いたい。

北阪神支部・歯科部会 島津俊二評議員 発言

①マイナ保険証によるオンライン資格確認義務無効を ②貧困患者の健康を重視する保険医運動を



マイナ保険証の危険性について訴える島津評議員

①「オンライン資格確認義務不存在確認等請求訴訟」11月28日判決迫る。

私はかねてよりマイナンバーカード並びにマイナ保険証の欠点を指摘し、警鐘を鳴らし続けてきた。マイナ保険証はその確認業務設備、人材等に確保、等により特に弱小医療機関にとってはハードルが高く、廃業を余儀なくされた医療機関もたくさんある。とくに歯科においては深刻だ。そして厚生労働省に至っては、資格確認設備の導入をしない医療機関は療担規則違反として保険医療機関取り消し事由とするとの、まさに脅してきたわけだ。怒りをもって、私は原告団の1415名に名を連ねた。我々医療機関にとって、この判決の意味は大きく、まさにマイナ保険証導入の意味を失わせることを意味する大事な判決だ。この裁判に勝利することができれば、廃業を余儀なくされた医療機関の方々無念をはらす報告が出来るとともに、一連の強引な政府の手法に「NO」を突き付けることになる。その勝利を信じて、28日に東京地裁に行ってくる。

②協会活動に新たな将来に向けた視点を

「貧困と医療」は、ともに健康にとって同じパラメーターの指標と言ってもいいと思う。現在、国は医療や介護施設に厳しく、廃業に追い込まれる事業者も多く、残されていくのは利用者である患者や高齢者である。最近の物価高で、独居高齢者の栄養不足が話題になっている。これらは即、健康問題と言えるだろう。また最近、オーストラリアの男性監督(20年在日)が日本のシングルマザーの貧困を取り上げた作品が話題になっている。当然、これは子どもたちの問題でもある。さらに現在、40代の女性がどれだけ将来の年金が受け取れるかという問題もある。これは国が進めた、ご都合主義の正規と非正規社員の問題でもある。これらは将来の間違いなく『貧困問題』へとつながる。現在でも、国民健康保険料が払えない方も増えている、それは顕著に貧困の指標となっている。こうした国によって作られた「貧困」と切り捨てられた病人、要介護者の健康を重視していくのが保険医運動だと思っている。これからも、こうした問題をもっと前面に押し出した運動を望む。



幹事会だより

第444回 12月5日(木) 参加7人

◆北阪神支部の会員数と組織率

11/30 現在 医科379人(77%)、歯科220人(68%)

◆情勢と医療運動対策

12月幹事会では、新春政策学習会の任務分担、来年の学術研究会案について話し合われた。12月2日からの保険証廃止について、マイナ保険証の危険性、資格確認書が保険証の代わりとなる役割など意見が交わされた。

◆当面の支部活動

1月18日(土)16時00分~がんこ宝塚苑にて、新春政策学習会を開催予定。(案内4面)

◆次回幹事会

1月18日(土)15時00分~「がんこ宝塚苑」にて開催予定。

お問い合わせはTEL 078-393-1805 小川・大野まで

兵庫県内7病院で新人医師臨床研修の定員ゼロに

4月に県が令和7年度の医師臨床研修病院の研修医募集定員を7つの病院に対して定員「0」の通達を出していた件で、11月26日付の神戸新聞で、定員がゼロとなる7病院(尼崎医療生協病院・市立芦屋病院・川西市立総合医療センター・川崎病院・高砂市民病院・市立加西病院・公立八鹿病院)からの批判の声が報道された。その声を紹介する。

川西市立総合医療センター(405床)は「病院全体の活力が低下する」と定員ゼロ化を懸念。尼崎医療生協病院(179床)は「若手を受け入れ、育てる機会が失われる」と批判。産婦人科が22年12月から分娩を中止するなど、医師不足が深刻な公立八鹿病院(養父市、344床)は「都市圏への医師集中を防ぐ制度なのに、医療過疎地域の病院が影響を受けるのは納得がいかない」と憤る。

新人医師臨床研修の定員ゼロの問題は、尼崎医療生協病院、民医連が声を上げ、県知事選の争点にもなっていた。兵庫県保険医協会は引き続き国に医師臨床研修の募集定員上限の引き上げを強く求め、県に対しては、国に医師臨床研修定員を増やすよう要望することを求めるとともに、地域の中小病院にも臨床研修ができるように求めていく。

☆北阪神支部ニュースへの投稿を募集しています

支部ニュースへの投稿を募集しています。

日常診療にかかわることや、主張、趣味のお話などお寄せください。

TEL 078-393-1815 / FAX 078-393-1802 e-mail akane@doc-net.or.jp 担当:大野まで

